

## 久しぶりの同期会！

宮野靖彦（昭和40年電化卒）

われわれは電化昭和40年卒です。ある時期から定期的に同期会を開催してきたのですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い実施できなくなりました。様子を観察していて、色々な制約が弱まった昨年2022年7月27日に横浜駅南口のBBQハウスで同期会開催に漕ぎつけました。集まったのは14名、卒業が38

名でしたが、残念ながら物故7名ですから約半分が出席したわけです。遠くは大阪、甲府から。

ビールを飲みつつ近況を語り合い、昔話に興じて暫し学生時代の気持ちに還り、2023年秋の再会を約して散会しました。



# Planned Happenstance(プランド ハプンスタンス) 随想 [第13話] お大師さんと金毘羅さん<その2>

藤平正氣(昭和44年応化卒)

## はじめに

私の故郷は、<おだいっさん>と<こんびらさん>、そして<讃州那珂の郡>の風景である。しかし、小学5年生修了時、父の単身赴任解消のため、この故郷を突然離れることになった。平成25年7月、会誌第11号に『Planned Happenstance(以下PHと称す)随想[第5話] / お大師さんと金毘羅さん』を寄稿した。あれから早くも10年が経過した。この1年、故郷の話題を集中的に見聞視聴した結果、PHとの遭遇を強く意識するようになった。そこで、<その2>を起こし、郷関を出でて68年の郷愁を語る心境となった。

## 弘法大師空海生誕1250年

<おだいっさん>は、774年6月15日、讃岐国多度郡屏風浦(香川県善通寺市)で生まれた。恐れながら私も同市内、彼の地の東方2キロの村落で生まれた。<おだいっさん>は、平安時代初期、真言宗の開祖として万人に真言密教の教えを説き、仏法の理論と実践を通じ、全国各地に実録と伝説的な偉業を数多遺された。2023年4月23日から6月15日まで、総本山善通寺御影堂でも、ご誕生1250年の記念大法会が執り行われたようだ。あの時代の秋祭りでは、笛や太鼓が境内に鳴り響き、露店や見世物小屋も大賑わい、近在からは老若男女が押し寄せる、何か怪しげな雑踏をかき分けて走り回った記憶がよみがえる。

## 善通寺市誕生70年

1954(昭和29)年3月31日、町村合併により誕生した善通寺市は、令和5年度に市制70周年を迎えた。その昔、“一町四村集まりて大善通寺市生まれたり”と合唱した記憶がある。そして、高度経済成長や列島改造の嵐が吹き荒れ、臨海コンビナート、本四連絡橋、四国高速道路のインフラ建設に伴い、村落の清流も暗渠に、農道も拡張舗装され、郊外の大型店舗が馴染みの商店街から客足を奪ってきた。この60年で、善通寺市の生活も風景も激変し、その様相は横浜市近郊と酷似してきた。ご多分に漏れず、全国共通の問題を抱えており、稲作や年中行事で結束していた村落は貴重な存在になり、次第に日本の原風景も失われていく運命にある。

## にっぽん百低山<象頭山>

NHK-TVで「にっぽん百低山」を視聴している。自称酒場詩人の吉田類さんが主人公で、女性の俳優やタレントと一緒に山登りしながら、その山の特徴や歴史を解説してくれる番組である。2023年2月15日、あの<象頭山>を俳優登山家の市毛良枝さんと登る情景が放映された。<象頭山>は、私の故郷の象徴的な山で、<金毘羅船々

>や銘菓<象山>にも登場した。象頭山の麓に、弘法大師生誕の善通寺市と金毘羅さんの琴平町が栄えた。金毘羅さんの参道周辺の神域は、当時の子供たちの遊び場で、本宮や奥宮そしてこれらに到る長い石段、また本宮からの讃岐平野の眺望は、私の記憶に深く刻まれている。番組最後の楽しみは? <さぬきうどん釜あげ>と<地酒金陵>は、予想通りの組合せであった。さらに、酒場詩人は、今回の山登りを“春潮の追風に任せ象頭山へ”の一句で締めた。讃岐平野には、高さ300~500mの独立峰が散在し、これらは小学生の遠足の対象で、その難易度に応じて登る学年を決めていたようだ。小学校からてくてく歩き、そして登る、という文字通り<遠足>の行列は、懐かしい光景である。

## 本四連絡橋児島坂出ルート全線開通35年

通称瀬戸大橋は、1988(昭和63)年4月10日に全面開通した。この建設を急がせた一因は、1955(昭和30)年5月11日早朝、濃霧で視界不良の中、宇高連絡船<紫雲丸>が貨車運航船と衝突、沈没した結果、修学旅行中の小学生を中心に死者168人の犠牲者を出した大惨事にあり、地元新聞の大きな活字を忘れ難い。

しかし、その3ヶ月前の2月某日土曜日、午後2時過ぎ、母が子供二人を引率し、約3時間かけて多度津港から尾道港へ瀬戸内海を横断していた。一泊二日の予定で、父の単身赴任先を訪問することになったからだ。当日は、朝から北西の季節風が吹き荒れ、溜池の波しぶきも半端ならず、嫌な予感の中、小学校を早退帰宅した。内海と言えど、50トン程度の小船は、木の葉のように大揺れし、昼食をほとんど吐き戻す始末、大事無く渡海できたのは、<海神こんびらさん>のお蔭様としか言いようが無い体験である。

## おわりに

定年退職後、両親に代わり毎年1~2回、墓参と法要のため帰郷を続けてきた。しかし、<COVID-19>の影響を受けて、2019年秋の帰郷を最後に、早くも4年が経過しそうである。今秋は帰郷できるだろうか?! 今春の高校野球センバツ大会、香川県から高松商高と英明高校の2校が出場できたのも特筆である。WBCで日本が世界の頂点に立った!! この圧倒的な話題が残念ながら球児たちの活躍を吹き飛ばしてしまった。

(令和5年7月8日 記)



## 2023年度も続く「蓄電池産業戦略推進会議」

佐藤 登（昭和51年電化卒、53年修士修了）

2020年の第18号から22年の第20号まで電池産業に関して執筆した。以降も、この領域では大きな動きがあったため第21号でも採り上げる。21年の11月18日に発足した経済産業省主導の「蓄電池産業戦略検討官民協議会」に有識者委員として招聘され活動している。22年8月31日には経済産業省にて最終とりまとめ報告を行い、西村経産大臣が同席のもと記者会見を執り行った。具体的な数値目標を設定して日本の電池産業の巻き返し戦略を表明した。例えば、30年までに車載用リチウムイオン電池事業をグローバルで600GWh、このうち国内で150GWh（EV換算でおおよそ200万台規模に相当）を確立することに。そのためには電池事業で2兆円を、部材事業で1.2兆円を官民分担で投資することを決定した。この官民協議会は23年度も継続することになり、「蓄電池産業戦略推進会議」と改称して継続されている。

23年6月には定期的に開催されている車載電池の国際会議AABC（Advanced Automotive Battery Conference）がドイツ・マインツで開催され出席した。会場参加者は1000名を超える大規模イベントとなった。20年12月にEUから発信された電池規制案（27年から電池製造時のカーボンフットプリントの開示やLi, Co, Niのリサイクル率規制等）、そして22年8月に米国バイデン政権が発したIRA（インフレ抑制法案）によるEV生産と電池生産の米国内への誘導など、強力な政治的判断と圧力が自動車業界や電池業界、さらには部材業界に大きな波紋を投じている。正に電池産業が経済安全保障となっている政治的側面が極めて強くなっている。

ドイツでの滞在中に、BSテレビ東京から連絡が入った。6月22日の「日経ニュースプラス9」で「次世代電池の展望」に関する30分番組を組むので六本木のスタジオから生出演してほしいとの要請だったが、ドイツからの中継で出演した。キャスターから筆者への質問は、「6月中旬にトヨタ自動車が発したEV用全固体電池の実用化を2027～28年と発表したのはどういう意図があったのか？」というものであったので二つ答えた。一つは、「翌々日がトヨタ自動車の株主総会を控えていたので株主の期待に応えるべく忖度をしたことでしょう」。そしてもう一つは、「株主総会までにそのような発信をしないと、ホンダが30年の実用化、日産自動車が28年の実用化と既に発信して

いることからトヨタ自動車が何も発信しないと株主総会でどうなっているのか？と聞かれることになるので、そのために先手を打ったのでしょうか」と。そして次なる質問は、「ドイツの国際会議ではどんな内容が主に議論されているのか？」とのことだったので、「EUの電池規制案と米国IRAが大きな影響を及ぼしていることから、これに絡んだ議論が多いですよ」と。さらには「車載用全固体電池はいつ頃の実用化になるのか？」と聞かれたため、「そもそも実用化に至ると言う確証はない中で研究開発は進んでいます。それだけ技術課題は多く重いため、2030年以前には難しいのではないかと思います」と。昨今、マスメディアの関心事項がEVシフトと電池産業、そして次世代電池となっていることは筆者へのインタビューや講演依頼の増加から伺える。

そのような折、7月12日には歴史と伝統のある（公財）横浜工業会（永井孝雄理事長）主催の講演会にお招きいただいた。当会常務理事には横山幸男先生がいらっしやって、横山先生の司会進行の下で執り行われた。会場からのご質問や懇親会でもいくつかご質問を受けたことで、多くの意見交換ができて有意義なイベントであった。今後も経済産業省の推進会議を媒体にして、日本の電池産業の強靱化に向けた提言を行っていく所存である。



6月22日の「日経ニュースプラス9」ドイツから中継

佐藤登 - Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B7%B4%E8%97%A4%E7%99%BB>